



特別支援に関する研修会



(教材を提示する椿原先生)

6月9日(木)、伊野南小学校で、講師に非営利活動法人教授法創造研究所の代表、椿原正和先生をお迎えし特別支援教育に視点をおいた「誰もが楽しく学べる国語科の授業」というテーマで、師範授業と講演をしていただきました。

伊野南小学校の先生方全員と、他校から8名の参加がありました。ありがとうございました。

師範授業 3年生 国語科

研修の前半は、講師による師範授業でした。授業では、①自己紹介②話す聞くスキル(音読)③うつしまるくん(視写)④モチモチの木(読解)という、4つの活動がありました。

授業開始から1分もたたないうちに、伊野南小学校3年生の子どもたちは椿原先生に引き込まれていきました。圧倒的なテンポ感と楽しさ、分かりやすさ、「できた」という実感がある授業でした。



(真剣な表情で教材を読む児童たち)



(個別指導は気づいた瞬間にパッと行く)

子どもたちや学級を常にほめて認めて励ましていただきました。いいところを見つけたら、すぐ全体に投げかけるのだそうです。しかし、「丁寧な言葉で発表する」「教師にお願いしますと言う」等、守るべきルールもその場で指導なさっていました。

また、視写の仕方を教えていただき、その大切さを大人も子どもも理解しました。

その他、先生自ら考案された「図読法」という読解のスキルを使って、誰でも分かりやすい物語文の読み取り方を解説していただきました。

講話「誰もが楽しく学べる国語科の授業」(抜粋)

私(椿原先生)は「にこにこ先生」という商標登録をしています。授業をする時、一番大事なことは「笑顔」です。怖い顔をしていると子どもがダメになります。笑顔で学力が上がるのです。

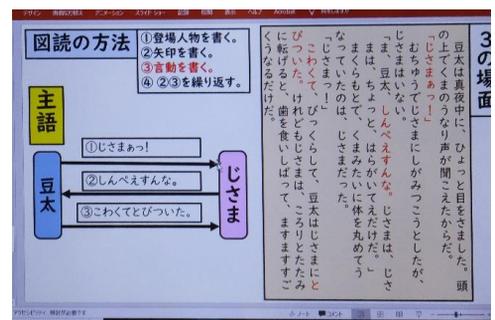
ほめ方もいろいろあります。

- ①強い刺激でほめる
- ②2回繰り返す
- ③名前を呼んでほめる
- ④特定化してほめる
- ⑤低刺激でほめる

まずは①のほめ方、MAXのほめ方からやってみましょう。ほめ方が上手でないと、子どもとラポール(関係性)ができず、指導が入らないのです。

毎日国語の授業をやっているのになぜ子どもたちは文章を読めないのか。それは説明文を読む時間が少ないからです。さらに日本は読解力をスキルとして指導していません。

本日私の授業で「あらすじ初読スキル」を指導しました。「図読法」を使い、中心人物の会話文を抜き出すことで、どんなあらすじなのか、すぐに分かります。



私たちの身の回りの文章は、すべて説明文で書かれています。説明文を読解するスキルを指導することが大切です。

教師の仕事は大変ですが、素晴らしい仕事です。子どもたちの笑顔のために、学んでいきましょう。

受講者の感想(抜粋)

特別支援学級の児童を交流学級と一緒に授業された際に、発言できず困っている特支の児童に対して「表現の方法は人それぞれだからね」と大きな声で伝えることで、全体への児童理解を促す手段とするんだなど、その技術を見習いたいと思いました。

国語の読解が苦手な私ですが、スキルをお聞きすることで、いろんな教材の読解をやりたいと思いました。それくらい、「なるほど」と思える手法で、ものすごくひきつけられる内容の授業と講演でした。

研究所より

本年度の特別支援教育研修は、椿原正和先生の神業(かみわざ)授業と、何時間でも聴いていなくなるような講話でした。夏休み期間ではなかったため、参加が難しかったと思います。椿原先生の授業動画は研究所に保管していますので、ご覧になりたい方は下記の電話番号までご連絡ください。(担当:小笠原)紙面の都合上、講話内容を全て載せられませんのでした。ぜひ椿原先生の書籍も読んでみてくださいね。

いの町教育研究所

TEL;088-893-1922(いの町教育委員会内) 088-893-0255(資料センター)